

1. まえがき

城郭のような文化景観の環境設計を行う場合には、構造物と人間の相互作用の科学的理解が必要となる。この論文はそれのためのひとつの方法として、城址公園内における構造物の使用者に記憶される程度とその理由を明らかにしようとするものである。

2. 実験目的

2-1. 城址公園の mental imagery の範囲を明らかにすること。すなわち城址公園として記憶される記憶心像の空間的広がりをはっきりさせること。

2-2. mental imagery を構成する要素、とくにその種類と数を明らかにすること。

2-3. mental imagery と実在とのずれから mental imagery の構成原理とその変化の過程を明らかにすること。

3. 調査地域

調査地域として、岩手県盛岡市内丸に存在する城址公園、岩手公園を選定した。当公園は種々の構造物より構成されているので、記憶心像の構成原理を究明するのに適していると考えたからである。

4. 回答者について

本調査の回答者として、当市出身以外の岩手大学工学部の学生を選んだ。全体の標本数および当市在住年数(表-1)のとおりである。実験は10月の昼間に行ったものである。なお回答者の大部分は大学周辺に住み、都市内を移動するにはほとんどがバスと徒歩であった。表-1

年次	人数	盛岡市在住年数
1年次	21名	7ヶ月
2年次	32名	1年 7ヶ月
3年次	27名	2年 7ヶ月

5. 調査の方法

調査法は、被験者の記憶心像を自由な地図によって再生させる技法を用いた。質問内容は「城址公園に良く似た建物あるいは構造物は何か、良く記憶されやすいものまたは場所は何か、大きいものでも小さいものでもよいからおもいだるものすべてを、はじめて訪れた人と案内するような気持ちで、すばやく

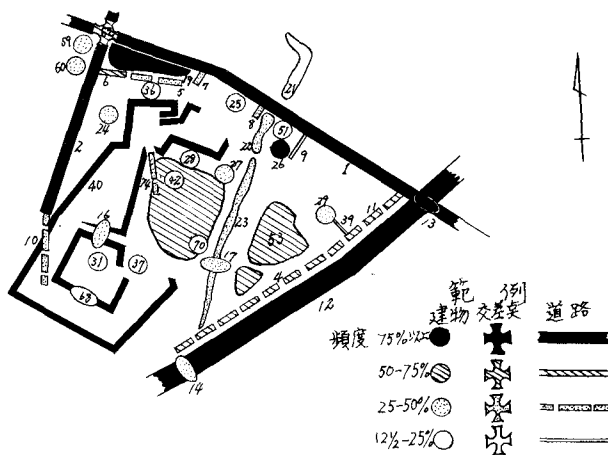


図-1. 一年次の image map

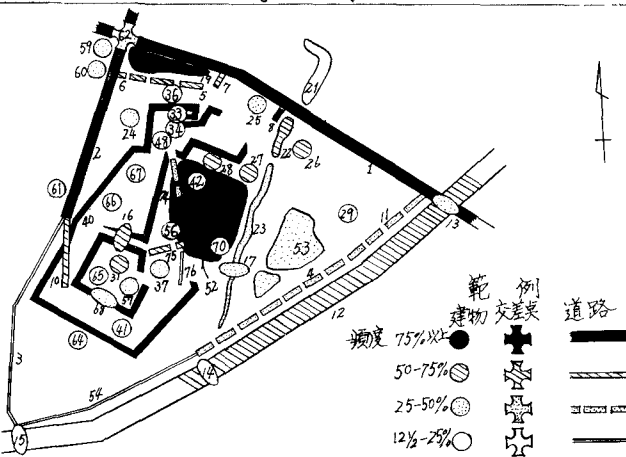


図-2. 二年次の image map

書き上げて下さい。最後に公園の境界と方位を記入して下さい。以上の質問に従って西洋紙2枚に2度にあたって自由な地図を書かせ、最初のもものは途中で提出させて書き始める場所をテイクした。

6. 調査結果

自由な地図により再生された公園要素の各学年の集計結果を図-1～図-3に示す。図に示された数字にさうとうする構造物に関してはスライドとともに述べる。

7. 考察と結論

構造物の記憶の程度は記憶の条件、すなわち、記憶すべき材料の性質(構造物の有意味度、構造物の量、構造物相互間の形態的構成)や、記憶方法(刺激の提示方法、刺激の感受の態度、反復の回数、反復の方法)などの諸々の条件によって影響される。さらに把持量の測定方法、例えば再生法によるか再認法あるいは再構成法によるかによっても多少その結果に影響するものと思われるがこのような観点にもとづいて上述の調査結果について特徴的な点を列挙すると次のようになる。

7-1. 各学年をとおして記憶率の高いものは大通り、河川、池、城址、石垣、大きな特異な建築物であり、特に1の道路と2の道路、12の河川は公園の範囲として考えられている。(図-4と比較されたい)。

7-2. 各学年を通じて記憶率の悪いものは大通りの北側(公園の主要な部分の反対側の地味)と15の橋付近である。この両端の地味が記憶されていないことが当地の城址公園を小さく感じさせている原因になっていると思われる。この両地味は図-4の斜線で示されるように私有地でもある。公園要素の形態的構成上の問題、土地利用上の問題などが指摘される。

7-3. 記憶の変化の過程に関しては、公園の外周から中心部へ向かっている様に思われる。特に高学年にならにつれて、公園内の遊歩道がなめらかに描写される傾向がみられた。このことは公園の形態的構成に部分相互の連絡としての遊歩道の役割が大きいことを示唆しているように思われる。

7-4. 記憶率の高いものから順に描写していく傾向がみられた。このことは人間の意思決定や行動が mental imagery に依存しているという認識に関連づけて考察すると興味深い。

7-5. 高学年にならにつれて記憶率が悪くなっていくものもある。大通りの花時計がその例であるが、これは人間の直接記憶域あるいは記憶構造に関連しているものと思われる。公園の設計の観点からは花時計の位置に問題がある。

7-6. 城址公園に関する mental imagery の構成原理の分析結果については当日発表の予定である。

最後に御指導いただいた、北海道大学教授の川俣三先生に謝意を表します。

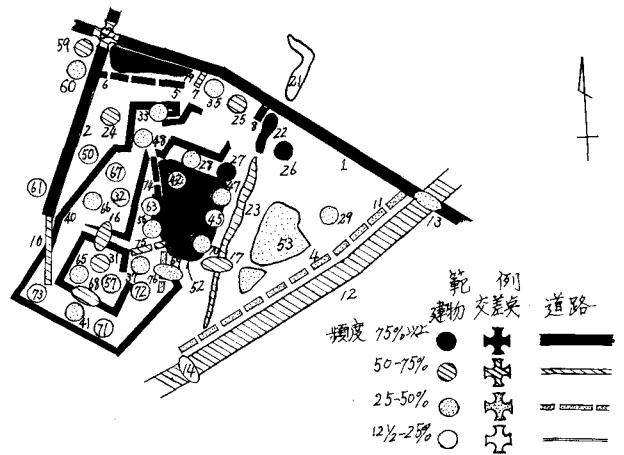


図-3. 三年次の image map



図-4. 岩手公園の公園区域